第12巻第6号［宮崎県6週（2/8～2/14）、全国5週（2/1～2/7）］　2010年2月18日

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

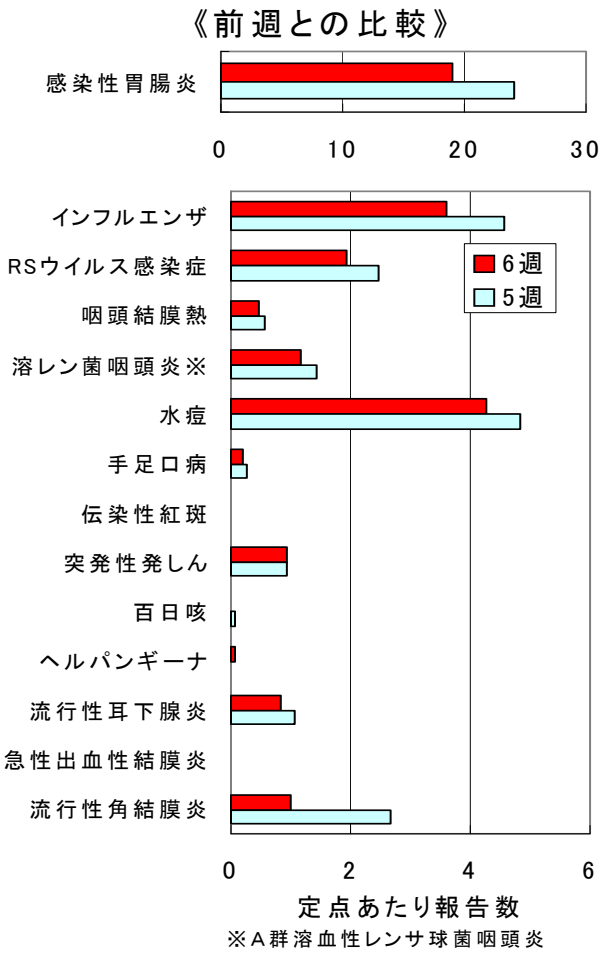
■ 宮崎県第6週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,257人（定点あたり33.5）で、前週比78%と減少した。

感染性胃腸炎の報告数は685人（19.0）で前週比79%と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値（13.7）の約1.4倍と多い。日南（41.3）・小林（28.3）・都城（20.7）保健所からの報告が多く、警報レベルを超えている。年齢別では1歳から6歳で全体の約6割を占めた。

水痘の報告数は153人（4.3）で前週比88%と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値(4.3)とほぼ同数である。延岡(8.0)・都城(5.0)・日向（5.0）保健所からの報告が多く、延岡保健所管内では警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

インフルエンザの報告数は212人（3.6）で前週比79%と減少した。都城（6.5）・小林(6.4)・延岡（4.9）保健所からの報告が多く，年齢別では5歳以下が全体の38%、6-9歳が22%、10-14歳が12%、15-19歳が6%、20歳代-50歳代が17%、60歳以上が5%を占めた。



□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	19.0	日南(41.3)、小林(28.3)、都城(20.7)	1歳～6歳で全体の約6割を占めた。
水痘	7	4.3	延岡(8.0)	1歳～3歳で全体の約7割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

1 類感染症 ： 報告なし。
2 類感染症 ： 結核 2 例が宮崎市保健所から報告された。
・50 歳代の男性で疑似症患者。咳、発熱がみられた。
・70 歳代の女性で疑似症患者。胸痛がみられた。
3 類感染症 ： 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が高鍋保健所から報告された。20 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 0146（VT1 産生）。
4 類感染症 ： つつが虫病 1 例が宮崎市保健所から報告された。70 歳代の男性で刺し口、リンパ節腫脹、発疹、肺炎がみられた。痂皮から病原体遺伝子の検出。
5 類感染症 ： 報告なし。

■ 全国第 5 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 25.0 で、前週比 91％と減少した。今週増加した主な疾患は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘で、減少した疾患はインフルエンザであった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 4,714 人（1.6）で、前週比 111％と増加したが、例年同時期（2.0）の約 8 割である。山形県（4.0）、鳥取県（3.8）、富山県（3.2）からの報告が多く、年齢別では 4 歳から 6 歳で全体の約 4 割を占めた。

水痘の報告数は 3,912 人（1.3）で、前週比 111%と増加したが、例年同時期（1.9）の約 7 割である。宮崎県（4.8）、沖縄県（3.5）、佐賀県（2.6）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約 8 割を占めた。

インフルエンザの報告数は 20,481 人（4.3）で、前週比 66％と減少した。山梨県（10.7）、福井県（10.5）、沖縄県（10.1）からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 27％、6-9 歳が 25％、10-14 歳が 19％、15-19 歳が 6％、20 歳代から 50 歳代が 21％、60 歳以上が 2％を占めた。

□ 全数把握対象疾患

1 類感染症 ： 報告なし。
2 類感染症 ： 結核 265 例
3 類感染症 ： 細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 22 例
4 類感染症 ： A 型肝炎 5 例、つつが虫病 1 例、テング熱 3 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 6 例
5 類感染症 ： アメーバ赤痢 8 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 3 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 16 例、梅毒 2 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 2 例、麻しん 9 例

■月報告対象疾患の発生動向　＜1 月＞

□性感染症

【宮崎県】　定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は46人（3.5）で、前月比92%と減少したが、昨年1月（2.4）の約1.5倍と多い。

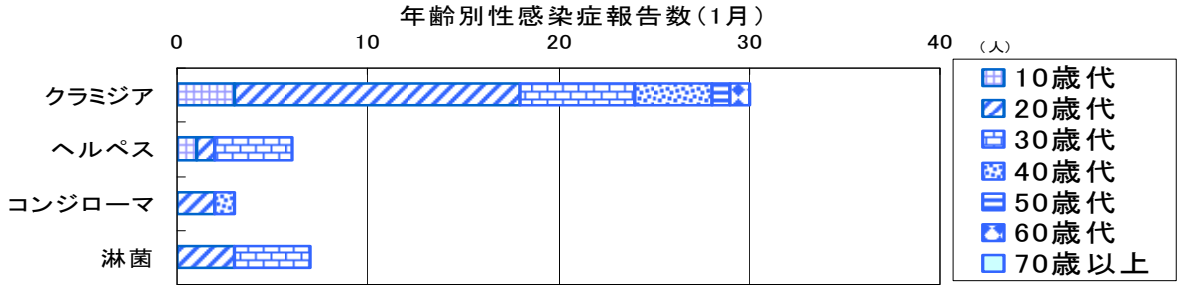
《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数30人（2.3）で、前月・前年の約9割であった。日向（7.0）、宮崎市（2.5）保健所からの報告が多く、男性12人・女性18人で、20歳代が全体の約半数、30歳代が約2割を占めた。

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人（0.5）で、前月の約1.2倍、前年の約1.8倍であった。全て女性で、10・20歳代がそれぞれ1人、30歳代が4人であった。

○尖圭コンジローマ：報告数3人（0.2）で、前月と同数、前年の約2.8倍であった。男性1人・女性2人で、20歳代が2人、40歳代が1人であった。

○淋菌感染症：報告数7人（0.5）で、前月の約9割、前年の約8割であった。全て男性で、20歳代が3人、30歳代が4人であった。



【全国】定点医療機関総数：960

定点医療機関からの報告総数は3,974人（4.1）で、前月比107%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,019人（2.1）で前月比104%、性器ヘルペスウイルス感染症691人（0.72）で前月比109%、尖圭コンジローマ414人（0.43）で前月比102%、淋菌感染症850人（0.89）で前月比116%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】　定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は45人(6.4)で前月比96%とほぼ横ばいであった。また昨年1月(6.0)の107%と多かった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数29人（4.1）で、前月の約1.1倍、前年とほぼ同数であった。宮崎市・日南（各7.0）、高鍋（6.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約6割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数16人（2.3）で、前月の約8割、前年の約1.5倍であった。宮崎市（15.0）保健所からの報告が多く、10歳未満が全体の約8割を占めた。

○薬剤耐性緑膿菌感染症　：報告はなかった。

【全国】　定点医療機関総数：465

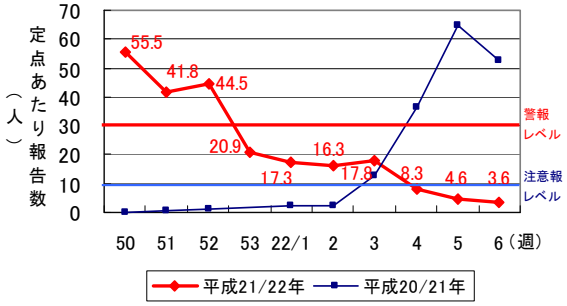
定点医療機関からの報告総数は 2,296 人（4.9）で、前月とほぼ同数であった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1,849 人（4.0）で前月比 102%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 422 人（0.91）で前月比 99%、薬剤耐性緑膿菌感染症 25 人（0.05）で前月比 56%であった。

■ インフルエンザ情報《県内第 6 週、全国第 5 週（再掲）》

□ 県内第 6 週インフルエンザ発生動向

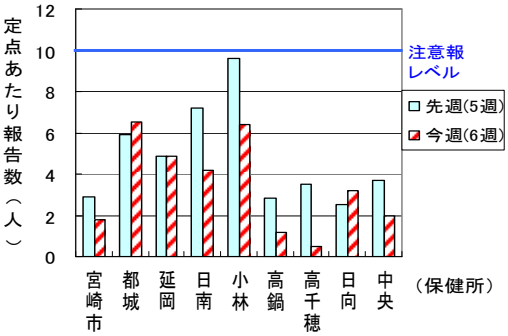
平成 22 年 2 月 8 日～2 月 14 日までの 1 週間で 212 人（定点あたり 3.6）の報告があり、前週比 79%と減少した（図 1）。都城（6.5）・小林（6.4）・延岡（4.9）保健所からの報告数が多く（図 2）、年齢別では 5 歳以下が全体の 38%、6-9 歳が 22%、10-14 歳が 12%、15-19 歳が 6%、20 歳代-50 歳代が 17%、60 歳以上が 5%を占めた（図 3）。

（図1）インフルエンザ週別発生状況（過去10週）

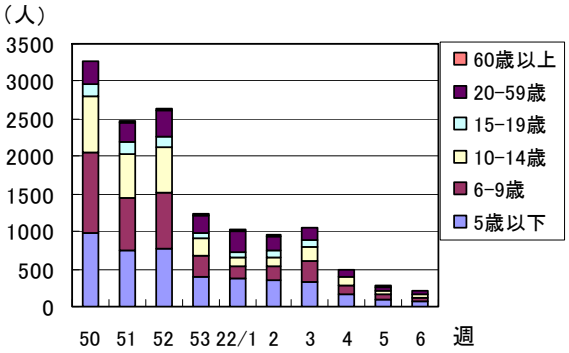


		第6週（2/8～2/14）	累計（21/30～22/6週）
集団発生件数		0	429
遺伝子検査陽性件数		2	411
型別	AH1亜型（ソ連型）	0	0
	AH3亜型（香港型）	0	2
	AH1pdm（新型）	2	409
入院患者数		3	256
重症患者数		0	15
死亡者数		0	4

（図2）インフルエンザ保健所別報告数



（図3）インフルエンザ報告数　年齢別割合の推移



インフルエンザ　警報・注意報レベル状況

インフルエンザの定点あたり報告数と警報・注意報レベル発生状況

○：警報レベル、△：注意報レベル、－警報・注意報レベルなし

保健所	今週（6週）		1週前（5週）		2週前（4週）		3週前（3週）		4週前（2週）		5週前（1週）	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
宮崎市	1.8	－	2.9	－	5.2	－	14.3	△	12.1	△	11.9	△
都城	6.5	－	5.9	－	10.8	△	19.9	△	21.3	△	19.9	△
延岡	4.9	－	4.9	－	6.7	－	13.4	△	19.7	△	22.7	△
日南	4.2	－	7.2	－	14.2	△	24.2	△	15.4	△	18.4	△
小林	6.4	－	9.6	－	16.0	△	28.8	△	23.6	△	35.8	○
高鍋	1.2	－	2.8	－	9.7	－	21.3	△	13.0	△	9.2	－
高千穂	0.5	－	3.5	－	2.5	－	6.5	－	13.5	△	16.0	△
日向	3.2	－	2.5	－	5.2	－	14.7	△	14.0	△	14.3	△
中央	2.0	－	3.7	－	3.0	－	16.0	△	15.0	△	14.3	△

□ 全国第 5 週インフルエンザ発生動向

平成 22 年 2 月 1 日～2 月 7 日までの 1 週間で 20,481 人（4.3）の報告があり、前週比 66%と減少した。山梨県（10.7）、福井県（10.5）、沖縄県（10.1）からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 27%、6-9 歳が 25%、10-14 歳が 19%、15-19 歳が 6%、20 歳代から 50 歳代が 21%、60 歳以上が 2%を占めた。

宮崎県 感染症情報　（72定点医療機関 ）

2010年 第06週（02月08日～02月14日）

疾病名		第5週	第6週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	270	212	27	65	34	21	32	7	1	19	6
	定点あたり	4.58	3.59	1.80	6.50	4.86	4.20	6.40	1.17	0.50	3.17	2.00
RSウイルス感染症	報告数	89	69	7	3	19	4		14		22	
	定点あたり	2.47	1.92	0.78	0.50	4.75	1.33	0.00	3.50	0.00	5.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	17	2	5	5	4				1	
	定点あたり	0.56	0.47	0.22	0.83	1.25	1.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	52	42	8	8	14	2	2	1	3	4	
	定点あたり	1.44	1.17	0.89	1.33	3.50	0.67	0.67	0.25	3.00	1.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	865	685	168	124	40	124	85	67	18	35	24
	定点あたり	24.03	19.03	18.67	20.67	10.00	41.33	28.33	16.75	18.00	8.75	12.00
水　痘	報告数	174	153	43	30	32	8	10	5	3	20	2
	定点あたり	4.83	4.25	4.78	5.00	8.00	2.67	3.33	1.25	3.00	5.00	1.00
手足口病	報告数	9	7			1	1		2		3	
	定点あたり	0.25	0.19	0.00	0.00	0.25	0.33	0.00	0.50	0.00	0.75	0.00
伝染性紅斑	報告数	0	1	1								
	定点あたり	0.00	0.03	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	33	33	12	8	6	2	2			3	
	定点あたり	0.92	0.92	1.33	1.33	1.50	0.67	0.67	0.00	0.00	0.75	0.00
百 日 咳	報告数	2										
	定点あたり	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		2			2						
	定点あたり	0.00	0.06	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	38	30	5		15	1				9	
	定点あたり	1.06	0.83	0.56	0.00	3.75	0.33	0.00	0.00	0.00	2.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	16	6	3	3							
	定点あたり	2.67	1.00	1.00	1.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点：59、小児科定点：36（インフルエンザ定点を兼ねる）、眼科定点：6、基幹定点：7

上段：報告数
下段：定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数（2010年第1週～6週）

2類感染症	結　核	19例 (2)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2例 (1)				
4類感染症	つつが虫病	1例 (1)	後天性免疫不全症候群	1例	梅　毒	2例
5類感染症	急性脳炎	3例				
	麻しん	1例				

（　）内は今週届出分、再掲

宮崎県平成 22 年第 6 週

こども感染症情報

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）と水ぼうそうに注意しましょう。(2 月 8 日～2 月 14 日)

冬に発生する嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）のほとんどがウイルスによるものです。ウイルスを原因とする嘔吐下痢症への特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では嘔吐や下痢によって脱水症状を起こすことがありますので注意しましょう。特に乳児の場合には病気の進行が急速なことが少なくないので、発熱、下痢、嘔吐などの症状があらわれたときには、早めに医療機関を受診しましょう。薬物等による治療効果は弱いので予防が肝心です。感染を予防するために石けんでの手洗い、うがいをしましょう。また、十分な睡眠と栄養を取り、体調を良好に保ちましょう。

水ぼうそうは延岡市周辺からの報告が多く、警報レベルを超えています。1 歳から 3 歳のこどもたちが多く感染しています。 水ぼうそうは気道を介して飛まつ感染するか、水ぶくれや粘膜の排出物から接触感染することによりうつります。人にうつる力が強いので、水ぶくれが完全に乾くまで外出や登園は控えましょう。